

1 学校教育目標

【教育目標】

- (1) 一人ひとりの可能性を伸ばし、一人ひとりの夢や目標の実現を支援する。
- (2) 自主・自立の精神を育て、主体的に進路選択ができる能力を育成する。
- (3) Think Globally, Act Locally

【大津校舎】

地域の期待に応える進学校としての充実を図るとともに、3キャンパス制のメリットを生かし多様な教育活動を展開し、グローバルな社会で活躍できる人材を育成する。

- (1) 自ら学び、考え、判断し、挑戦・実行していく力を育む。
- (2) 多様な体験を通して、多面的に物事を捉える力を育て豊かな人間性を育む。
- (3) 国際教育を推進し、コミュニケーション・ツールとして、英語の習熟を図る。

【日置校舎】

地域の期待に応える専門学科としての充実を図るとともに、3キャンパスの連携による生徒の自主的活動を充実させ、地域社会に貢献できる人材を育成する。

- (1) 地域産業との連携を強化することにより、社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 学校行事等の自主的活動の充実を図り、人間関係能力の向上を図る。
- (3) 系統的・組織的なキャリア教育の推進により、一人ひとりの夢の実現を図る。

【水産校舎】

3キャンパス制のメリットを生かすとともに、海に学び、自信と誇りを持って海を核とした産業社会に貢献できる人材の育成を図る。

- (1) 海に生きるための規律ある行動と体力を身につけさせる。
- (2) 海のスペシャリストとして必要な知識・技能を身につけさせる。
- (3) 生徒一人ひとりを大切にして、達成感や感動のある教育活動を実践する。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【3校舎共通】

- ・県初の高校コミュニティ・スクールの指定を受け、各校舎の特徴を生かしながら、学校運営・地域支援・地域貢献など「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて一定の成果が表れた。
- ・生徒会と市内の食品製造会社「フジミツ」・「深川養鶏協同組合」が一緒になって、「長門の特産品を使った加工品」をテーマに商品開発に取り組み、一定の評価を受けた。
- ・生徒指導に関して、各校舎共通のルールで指導していることで、生徒の意識が高まり、場に応じた行動を自らの判断で対応することができる生徒が増加した。
- ・授業公開週間や研究授業をこれまで通り継続するとともに、異校種にも目を向け、小・中学校で行われる研究授業等に積極的に参加し、授業改善に役立てることも必要である。
- ・インターンシップや進路ガイダンス、大学・企業訪問などを計画的に行い、職業観の育成や目標設定の機会の充実を図ることができた。地元企業への就職を増やすことが、引き続き望まれる。

【大津校舎】

- ・学校運営…「総合的な学習の時間」の充実を図るため、長門学における地域人材の活用や、国際交流員を招聘した国際理解教育を昨年度から実施している。生徒達には大変好評であり、郷土理解と国際理解の深化を図るという目的は十分に達成できている。今年度はさらに拡大していく方向で検討を進めていく。学校通信の発行、ホームページの更新、中学校への訪問拡大など、本校舎からの情報発信は積極的に進められている。今後は、発信した情報の周知を図る工夫が必要である。
- ・学習指導…授業公開、初任者研修やフォローアップ研修、中高連携の研究授業等の機会を利用して、三校舎間で積極的に授業研修に取り組み、教員の授業力向上を図っている。今後は新しい大学入試を意識した授業改善をさらに進めていくと同時に、引き続き朝学習や週末課題、課外授業等の徹底を図っていく。
- ・進路指導…課外授業では、夏季前期・後期の開講科目の調整、開講講座の増設、習熟度別の一部導入で生徒のニーズに可能な限り対応している。また、大学や予備校との連携により、様々な企画を進めることで、生徒の進路意識の高揚を図っている。今後は個々の取組に継続性と関連性を持たせ、生徒が将来の進路を段階的に考えていける体制を工夫していく必要がある。
- ・生徒指導…生徒は落ち着いており、校則等は概ね遵守できているが、一部の生徒には交通マナーや携帯電話の使用の仕方に問題があるため指導を強化していく必要がある。保健指導では健康診断後の受診など、生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めていけるように、継続して指導していく必要がある。また、環境整備については、流し場の清掃など今一度見直す必要がある。教育相談においては、学期ごとのFitアンケートを踏まえた教育相談会議や関係機関職員とのケース会議を適宜実施し、SC、教育相談関係者、保護者、学年団との情報交換も密に行いながら、生徒の支援につなげている。しかし、不登校傾向にある生徒は依然としており、早期対応及び支援の一層の改善・充実が必要である。
- ・その他…昨年7月に実施した韓国中馬高校との交流では、両校の生徒がテーマを設定し、ネット環境を利用して事前に意見交換を行い、訪問当日に両校が協力して発表する形で実施した。内容的にも素晴らしいものになり、参加したほとんどの生徒が満足したと回答していた。今後は、長期的にこの交流を継続していくための財源確保について検討していく必要がある。

【日置校舎】

- ・学校運営…昨年度も、地域との交流、学習の場とした学校開放に努め、地域連携活動を盛んに行った。校外での農業学習は充実しており、生徒の自己肯定感を醸成できていると感じる。入学定員の充足に対応しては、体験入学や各中学校での進学説明会、各中学校への訪問、HPの活用、マスコミへの報道依頼等情報発信に努めたが、十分な成果は現れなかった。
- ・学習指導…「分かる授業」の取組が着実に実践されており、また、放課後等を利用した綿密な個別指導により、昨年度に比べて欠点総数・欠点保持者数ともに半減した。プロジェクト研究活動では、地域資源を活用した題材や地域の課題解決に向けた取組が多く、畜産班が農業クラブ全国大会で優秀賞を受賞するなど、日置校舎としての独自性や強い探求心が発揮された。
- ・進路指導…年間指導計画にしたがってきめ細やかな面談や個別指導を行い、生徒が希望する進路先に早い段階で決定することができ、進路決定率100%を達成できた。2年次のインターンシップについては、学科に関連したインターンシップ先で体験できるよう更なる対応が必要である。生徒が早い段階に高い進路目標を設定できるようキャリア教育の更なる充実を図る。
- ・生徒指導…全体的に基本的な生活習慣が確立されつつあったが、自ら考えて行動できるまでには至っていない。特別活動では、生徒会を中心とした活動が積極的に行なわれ、また、全校生徒が順番に校門に立つ「さわやか挨拶運動」を通して、生徒間でのコミュニケーションを大切にしようとする意識が高まった。来校者に対して、更に明るく挨拶ができるようになることを期待する。
- ・その他…保健体育について、健康診断及び事前事後の保健指導の充実により、事後措置における受診率が一昨年度に比べてはるかに上がった。しかし、まだ不十分であるので、継続して指導をする必要がある。

【水産校舎】

- ・学校運営…地域と連携した活動では、漁協と連携した漁業後継者育成の取組や6次産業の取組、長門市役所・漁協と連携したアワビの放流と育成場整備の取組、水産研究センター・漁協・企業と連携したアカモクの増養殖と商品開発の取組など、地域の水産業の活性化に貢献するとともに学習活動・体験活動の充実を図ることができた。また、地元小学校と連携した授業では、小学生が本校舎の実習施設を使用して色々な食品の製造を体験し、食に対する興味関心の向上に繋がった。特色ある活動をより積極的、効果的に情報発信することが必要である。
- ・学習指導…学習状況、出席状況ともに昨年度に比べ改善が見られた。苦手科目の取組状況に引き続き課題がある。資格取得では、取得率も上がり、学習意欲の向上に繋がった。
- ・生徒指導…アンケートや相談活動、情報共有等の充実など、未然防止の取組の強化により昨年度に比べ問題行動等が減少したが、SNSを使用したトラブル防止等に依然として課題がある。
- ・進路指導…進路面談や事前指導の充実により、進学では全員が希望校に合格したが、就職では若干名の未定が出た。内定率100%に向けた、1年次・2年次での指導の充実が課題である。また、全体の約73%の生徒が、水産漁業関係に進学・就職しており、専門高校の特色を生かしている。
- ・その他…生徒募集では、全教員で7月・12月に県下の中学校を訪問し、生徒募集・学校PRを積極的に行ったが、一次募集の志願倍率は海洋技術科1.1倍、海洋科学科0.5倍であった。志願者増加に向け、取組のさらなる充実が必要である。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【3校舎共通】

- 学校運営協議会での議論を踏まえ、大津緑洋高校の更なる活性化に向けた「魅力ある学校づくり」を推進する。
- コミュニティ・スクールの取組については、単に回数を増やすだけでなく、地域連携活動の質の向上をめざす。
- 各校舎の特徴を生かした教育活動を展開するとともに、体験乗船や農業体験、生徒会活動など3校舎が一体となる学校行事を継続し、連携教育活動のさらなる充実を図る。
- 本校の良さを認識してもらうため、しっかりとした情報発信を行う。特に地域の小・中学校の児童生徒、保護者、教員には創意工夫した情報の発信に努める。
- 大津緑洋高校創立10周年の節目が近づいていることから、これまでの取組の検証を行い、「大津緑洋高校の新たな10年」に向けた基盤づくりに取り組む。

【大津校舎】

- コミュニティ・スクールの取組を生かした特色ある学校運営と積極的な情報発信
 - ・コミュニティ・スクールを効果的に活用し、教育の質の向上を図り、教育目標の達成をめざす。具体的には、学校運営協議会の協力を得ながら地域人材の活用を積極的に進め、地域の皆さんとの交流や実践的・専門的な知識に触れる機会を増加させ、「Think Globally, Act Locally」の精神につなげる。
 - ・本校舎の活動を生徒、保護者、地域に情報発信するとともに、それを周知することで本校舎の教育活動を理解してもらい志願者確保につなげる。
- 基礎・基本の徹底と新大学入試システムを意識した学力養成
 - ・朝学習や週末課題、課外授業等の徹底を図り、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させる。特に、朝学習については、今一度、教職員の共通理解を図り、効果的な取組となるように工夫する。
 - ・主体的に予習・復習に取り組む学習習慣の確立を図るとともに、教員の授業力を向上させ「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業づくりを進めることで、生徒の学習意欲を高め、基礎・基本の定着、思考力・表現力等の育成を図る。
- 主体的な進路選択と将来を見据えた段階的な進路指導
 - ・大学の出前講義や大学訪問、インターンシップ等の体験学習、韓国中馬高校との交流等を積極的に進めることで、生徒の主体的な進路意識を向上させる。
 - ・個々の取組に継続性と関連性を持たせ、生徒が将来の進路を段階的に考えていける体制を構築する。
- 規範意識の向上と自己有用感の育成
 - ・生徒は概ね落ち着いているが、一部の生徒に服装の乱れや交通マナー、携帯電話の使用の仕方に関する問題があるため、指導を強化し規範意識を向上させる取組を進めていく。
 - ・学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等を活性化することで、生徒の自己有用感を高め、地域の期待に応えるリーダーとしての主体性や自主性を育成する。
- 主体的な健康管理を意識させた保健指導
 - ・生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めていけるように、健康診断後や様々な場面において継続的に指導していく。また、環境整備については、安全面と同時に衛生面からも現状を調査し、改善が必要な部分は清掃活動や保健委員会の活動として取り組んでいく。
- 個々の生徒の状況に応じた支援体制の充実
 - ・全教職員やスクールカウンセラー、中学校等との連携を進め、個人面談や定期的なアンケートの実施による生徒情報の積極的な収集と意見交換により、個々の生徒の課題解決に向け、きめ細かな支援を実践する。

【日置校舎】

- 分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。〈教務課〉
 - ・生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。
 - ・全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。
 - ・体験的な学習、作業的な学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。
- 人間関係能力の向上を図る。〈生徒指導課〉
 - ・良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的生活習慣の確立を図る。
 - ・3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実践し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。
 - ・生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。
- ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。〈保健体育課〉
 - ・規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。
 - ・生徒の情報共有に努め、健康観察・健康相談、教育相談等の充実を図る。
 - ・健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。
- 系統的・組織的なキャリア教育を推進する。〈進路指導課〉
 - ・3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。
 - ・インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。
 - ・きめ細やかな面談や課外授業、個別指導等を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。
- 地域との連携を強化する。〈農業部〉
 - ・「学校・地域連携協議会」や地元の関係機関との連携を強化する。
 - ・地域の課題を題材にしたプロジェクト学習を推進し、地域連携による研究活動の充実を図る。
 - ・6次産業化に向けて、直売所を活用した生産から加工、販売までの一貫した教育を展開する。

【水産校舎】

- 地域連携の充実による特色ある学校づくり
 - ・コミュニティスクールとしての地域連携、地域貢献の活動の充実に取り組み、水産教育への理解と期待に繋げる。
 - ・特色ある教育活動の推進に取り組みとともに、ホームページの充実等により積極的・効果的な情報発信を図り、生徒募集につなげる。
- 基礎学力定着と進路実現
 - ・生徒の基礎学力向上、学習意欲向上のために、分かりやすい授業と指導方法の充実に努め、全教員が一致協力して取り組む。
 - ・生徒の進路希望の実現に向け、計画的・組織的できめ細かい指導と面談等の実施、充実に取り組む。
 - ・海のスペシャリスト育成に向け、体験的な学習の充実や資格取得の啓発を図る。
- 一人ひとりを大切にする教育の推進
 - ・生徒が安心・安全で充実した学校生活を送れるよう生徒指導、相談活動等の充実を図るとともに、生徒理解と情報共有に努め、問題行動やいじめ等の未然防止に取り組む。
 - ・規範意識の向上とともに、生徒会活動、特別活動の充実により達成感や自己有用感の醸成を図る。
 - ・基礎体力の向上とともに、健康相談等の充実により健康管理の意識の向上を図る。

【生徒会チャレンジ目標】

- 考動力 ～We change 大津緑洋～
 - ・自ら考えて動く力で、学校生活をよりよいものに変えていきます。
 - ・学業や部活などはもちろん、挨拶・身だしなみ・マナーも向上させます。
 - ・学校生活を向上させることで、より質の高い地域貢献を行います。

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
3 校舎共通						3校舎共通	
総括	3校舎運営体制の充実	・企画調整会議や各種会議を計画的、組織的に運営する。	4 企画調整会議及び管理職会議をそれぞれ年間13回以上開催した。 3 企画調整会議及び管理職会議をそれぞれ年間10～12回開催した。 2 企画調整会議及び管理職会議をそれぞれ年間6～9回開催した。 1 企画調整会議及び管理職会議の開催はそれぞれ年間5回以下であった。	3	・計画通り、毎月1回以上、企画調整会議及び管理職会議を開催し、3校舎全体で課題の共有とその解決に向けた協議を緊密に行うことにより、本校教育活動の組織的で円滑な運営を図った。	・長期休業中も含めて、計画的に開催されていることや、組織的で円滑な運営が図られていること、その結果が生徒の生活態度等に見えることから評価は高くもよい。 ・3校舎の情報共有は学校運営の基礎となる。引き続き連携をお願いする。	B
	連携教育活動の充実	・学校行事や生徒会、部活動をはじめとした3校舎の連携協働の推進と学校としての一体感の醸成を促進する。	学校評価アンケート等における「3校舎の連携した教育活動の推進」に係る項目についての肯定的な回答 4 70%以上 3 65～70% 2 60～65% 1 60%未満	3	【大津】生徒78.9%・保護者74.3% 【日置】生徒66.7%・保護者63.2% 【水産】生徒63.5%・保護者82.1% ・生徒会活動や部活動など、3校舎のメリットを生かした活動が活性化している。 ・本年度導入されたPTAの「文化活動等支援金」を活用し、さらなる連携教育活動の充実を図りたい。	・大津校舎の体育祭や文化祭に、例えば、部活動行進やリレー、合唱などで、日置・水産校舎からの参加ができないか。 ・Skype等の活用の検討を。(但し、個人情報に注意しながら)	B
	コミュニティ・スクールの推進	・地域と一体となった教育活動の充実を推進する。	4 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることが十分にできた。 3 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができた。 2 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることがあまりできなかった。 1 地域と一体となった魅力ある教育活動を進めることができなかった。	3	【3校舎生徒会】ボランティア活動に加え、地域と一体となった国際交流活動を行った。 【大津】「長門学」において地域人材の活用範囲を拡大した。 【日置】地域連携によるプロジェクト研究活動の充実を図り、畜産班は昨年に続き農業クラブ全国大会への出場を果たした。 【水産】研究活動に加え、地元漁協女性部との合同実習や仙崎公民館と山口大学が連携した住民交流会へ参加するなど新たな活動に着手した。	・3校舎それぞれが、形や内容が違っても素晴らしい取組を進めており、成果を上げていることは高く評価されてよい。中でも「長門学」は他の普通科高校の模範となり得るものである。 ・地域人材を学校運営や授業の中で起用することがコミスクのメリットだと思う。人材発掘にも協力したい。	A
	いじめ防止対策の推進	・学校いじめ防止基本方針を周知し確実な実施を図る。	4 開発的・予防的な生徒指導に取り組み、学校適応感を十分に向上させた。 3 開発的・予防的な生徒指導に取り組み、学校適応感を向上させた。 2 開発的・予防的な生徒指導に取り組んだが、学校適応感があまり向上しなかった。 1 開発的・予防的な生徒指導に取り組んだが、学校適応感が向上しなかった。	4	・「学校に適應している生徒の割合」(Fitアンケート結果より) 【大津】①98.0% ②97.5% ③2月実施 【日置】①90.0% ②94.1% ③92.5% 【水産】①89.3% ②92.3% ③94.9% ・学校行事や部活動をとおして、より良い人間関係の形成に取り組み、学校適応感を向上させることができた。	・生徒総会やロングホームルーム等でこの問題を取り上げ、熟議などを行うことも必要である。 ・学校行事や部活動等で、生徒同士のつながりもできる。アンケートの流出には最大の配慮をしながら、個人の思いや本音を把握してほしい。 ・Fit以外のvoice機会を充実させることも必要。	A
	新たな本校10年を見据えた活動	・これまでの取組の検証を行い、次の10年に向けた基盤づくりに取り組む。	4 取組の検証を行い、新たな10年に向けた基本計画を策定した。 3 取組の検証を行い、新たな10年に向けた基本計画の策定に着手した。 2 取組の検証を行い、課題を見出した。 1 取組の検証を行うに至らなかった。	2	・各校舎において、学校評価アンケート等を活用し、将来ビジョンに向けての課題の抽出を行っているところである。 ・平成34年度からの新学習指導要領の施行を見据えた取組を進める必要がある。	・「理想の大津緑洋高校像」のようなテーマの下、生徒に意見やアイデア等を求めること、市民からの提言をいただくこと等も必要かもしれない。 ・県内初の高校コミスクとしての活動の中から課題を見出せることが評価されるべき。学習指導要領、県や市との連携を大切に更なる発展を期待したい。 ・ビジョンの具体化を一層推進してほしい。	B
	働き方改革の推進	・学校閉庁日や最終退校時刻の設定など具体的な改善策を実施する。	4 時間外業務平成28年度比20%以上削減した。 3 時間外業務平成28年度比10%～20%削減した。 2 時間外業務平成28年度比0%～10%削減した。 1 時間外業務平成28年度比削減できなかった。	2	・4～12月の時間外業務の平均 【大津】69.4時間(H28比▲5.9%) 【日置】60.7時間(H28比4.0%) 【水産】43.0時間(H28比▲14.5%) ・2学期には、学校行事やさんフェア、受験指導などの業務が集中し、各校舎とも時間外業務が増加した。	・何が時間外業務を強いるのかを共通理解した上で、何をどのように削減していくかを考えることが大切。全員でノー残業デーをやってみることも必要。 ・働き方改革のガイドラインが示された今、具体的な改善策が必要ではないか。 ・働き方改革でも最新の学校として、業務改善をしてほしい。	C

大津校舎				大津校舎		
学校運営等	保護者・地域の理解を得ながら、地域の期待に応える学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用やさまざまな機会をとらえて、本校の魅力を地域や中学校、保護者へ積極的に情報発信する。 ・志願者数確保のため、情報発信の範囲を拡大する。 ・学校運営協議会等の意見を参考に、学校運営の見直し、改善に取り組む。 	(アンケート項目) 「学校からの情報は保護者・地域に十分に提供されている。」 4 [学校評価アンケート(肯定的意見) 70%以上] 3 [学校評価アンケート(肯定的意見) 65~70%] 2 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60~65%] 1 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60%未満]	4	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的意見は73.8%。昨年度より6.6%増加した。 ・学校通信の発行、ホームページの活用は意欲的に取り組んだ。また、閲覧数を増やすための工夫として、緊急メール発信時にHPアドレスを添付した。 ・学校説明会だけでなく、範囲を拡大させながら中学校を訪問し、本校の良さを発信した。 ・学校運営協議会での意見を参考に、長門学における講師の活用範囲を拡大した。 	A
	校舎間や地域との連携促進による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会、研究授業等の取組をとおして、3校舎や地域との連携協力を進め、他校では真似できない本校の特色を活かした教育活動の充実を図る。 	(アンケート項目) 「3校舎や地域との連携が進み、特色ある教育活動が行われている。」 4 [学校評価アンケート(肯定的意見) 70%以上] 3 [学校評価アンケート(肯定的意見) 65~70%] 2 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60~65%] 1 [学校評価アンケート(肯定的意見) 60%未満]	4	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的意見は生徒78.9%、昨年度より10.6%増加、保護者74.3%、昨年度より8.3%増加した。 ・三校舎の生徒会を中心として、地域と連携した取組が充実してきた。 ・各校舎の行事や合同行事を通して特色ある教育活動が進められている。 ・授業公開、初任者研修やフォローアップ研修、中高連携の研究授業等の機会を利用して、三校舎間はもちろん、小中高間でも意欲的に授業研修に取り組んだ。 	
総務	保護者参加型PTA活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌・学年と連携しPTA総会に工夫を加え、総会出席率の向上を図る。 	4 PTA総会90%以上の出席率であった。 3 PTA総会80%以上の出席率であった。 2 PTA総会70%以上の出席率であった。 1 PTA総会60%以上の出席率であった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会の出席率は前年度より上がり、8割を超え83.3%であった。 	A
教務	学習習慣の確立と主体的な学びに対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の二極化に対応するため、朝学習や小テスト等を利用して基礎学力を定着させる。 ・生徒一人ひとりが積極的に参加できるように授業改善を図る。 	4 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の80%以上が肯定的意見であった。 3 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の75%以上が肯定的意見であった。 2 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の70%以上が肯定的意見であった。 1 学校評価アンケート「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の70%未満が肯定的意見であった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの「朝学・週末課題・課外等の学習に対する取組は学習の意欲を高めている」の項目において生徒の91.3%が肯定的意見であった。昨年度の84.8%からも6.5ポイント上昇していた。 ・朝学・週末課題等に対する生徒の取り組みも概ねよい。 ・引き続き、授業改善に努めていきたい。 	A
	地域や保護者に対する情報発信の手段について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者への積極的な情報発信をする。 ・緊急メールの活用方法の改善を検討する。 ・大津校舎ホームページの更新を頻繁に行う。 	4 ホームページを平均週1回以上更新し、地域や保護者に積極的な情報発信ができた。 3 ホームページを平均2週に1回以上更新し、地域や保護者に一定程度、積極的な情報発信ができた。 2 ホームページを平均月に1回以上更新し、地域や保護者にあまり情報発信ができなかった。 1 ホームページを平均月に1回未満しか更新できず、地域や保護者への情報発信も不十分であった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・12月18日現在79回(週平均2.1回)の記事を更新し、行事や学校生活の様子を地域や保護者に情報発信することができた。 ・4月から1日のホームページへのアクセス数の平均が55回となっている。緊急メール等で保護者にホームページのことを周知した効果がでてきている。 ・本校受験を考えているの中学生にも学校の様子がわかるような工夫をしていきたい。 	
	地域の文化への理解と国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・長門学において地元の人材を講師として招聘し、地元への理解をさらに深化する。 ・留学生との交流や、韓国中馬高校との交流事業等を活用し、国際理解教育を推進する。 	4 長門学や国際交流の授業の評価において80%以上の生徒が満足したと回答した。 3 長門学や国際交流の授業の評価において70%以上の生徒が満足したと回答した。 2 長門学や国際交流の授業の評価において60%以上の生徒が満足したと回答した。 1 長門学や国際交流の授業の評価において60%以下の生徒しか満足できなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・長門学の講演や乗船体験・農業体験の感想から、80%以上の生徒が満足したとの回答であった。 ・国際交流員による講演や女子セブンスの外国人選手との交流、修学旅行でのJICAや大使館訪問の機会を活かして国際理解教育を推進してきたが、来年度は中馬高校との交流を通してより実りある国際理解教育を推進していきたい。 	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立(『形』)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得を遵守し、高校生らしい清潔感のある服装・頭髪、着こなしに心掛ける。 ・登校時間や授業の始業時間等を遵守する。 ・感謝の気持ちと思いやり、そして誰に対してもその場に応じた挨拶が出来るようにする。 	4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の着こなしについて、夏服期間に乱れが少しあっても、日常の声掛けによりその都度正され改善できている。冬場の防寒着のきまりについて、理解していない生徒があった。 ・登校時間や始業時間の守れないことが度々あるので、生徒だけでなく教科担当と連携し今後も重点的に指導していかねばならない。 ・挨拶はほぼできるが、その場に応じた行動や、笑顔で大きな声が出せるよう引き続き指導していく。 	A
	規範意識の醸成(『心』)	<ul style="list-style-type: none"> ・校則を熟知した上で遵守する。 ・交通法規を守り、マナーの向上に努め、特に施設、傘差し運転、並進等に気をつける。 ・携帯電話等の使用について、校則を守るとともに社会一般での使用マナーの徹底を図る。 ・大津緑洋高生としての自覚を持ち、社会の一員として道徳心の向上に努める。 	4 4つの具体的方策が十分に達成されている。 3 3つの具体的方策が十分に達成されている。 2 2つの具体的方策が十分に達成されている。 1 1つの具体的方策が十分に達成されている。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒着のきまりが守れない生徒が数人いた。事前にきまりを確認したが、徹底されていなかった。 ・特に自転車の鍵掛を徹底する取組を強化してきて、その成果が出てきている。傘差し運転や並進走行も見かけないが、引き続き指導していく。 ・地域の小中学生の見本となるように、交通マナー・ルールの遵守をさらに徹底させる。 ・校内の携帯電話使用の違反はほとんどないが、校外においての使用マナーを向上させる。 ・いつでもどこでも大津緑洋高生としての自覚を持って行動できるよう引き続き指導していく。 	

保健体育	自己の健康意識の向上と運動習慣の改善・定着	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な身体測定を通じて、生活習慣の見直しの機会とする。 スポーツテストや体育的行事を通じて体力の向上を意識させる。 	<p>4 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が75%以上であった。</p> <p>3 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が65%以上であった。</p> <p>2 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が55%以上であった。</p> <p>1 本校舎が健康や体力の増進に努めているとのアンケート結果が55%未満であった。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートに81.7%もの生徒が主体的に健康や体力の増進に努めていると回答した。 授業や身体測定・体育的行事等が契機となり、健康の保持増進や体力の向上に向け、運動習慣の定着が必要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校時代の情報の活用と中学校との連携も大切だと思う。 生きる上でも体が資本であることを理解してもらえような指導が必要。保護者の協力は大切。 必要性の理解は出来ているのか。 	B
	健診結果に基づく事後措置率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前に個人指導を行う。 受診状況を長期休業後に把握し、個人指導を行うとともに、勧告者一覧表を担任に配布し協力を得る。 保護者会を通じて保護者の協力を得る。 学校保健安全委員会の結果を保健委員を通じて生徒へ反映させる。 	<p>4 事後措置率が70%以上であった。</p> <p>3 事後措置率が60%以上であった。</p> <p>2 事後措置率が50%以上であった。</p> <p>1 事後措置率が50%未満であった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 事後措置率は心臓50.0%、内科100%、視力62.3%、歯科65.1%、耳鼻科63.3%、眼科50.0%、尿80%という状況である。(平均67.3%)部活動や学習で時間がないという生徒が多い。さらに、受診の必要性を感じていない生徒もいる。 個別に保健指導を行い受診勧告をするとともに、保健だより、委員会活動等を通して受診の必要性を指導してきたが、自己の健康への関心がより高まるよう継続して指導していきたい。 		
	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> SCとの効果的な連携を図り、生徒の学校不適応等への対応や未然防止に努める。 教職員の研修会等を通してカウンセリング技術や指導力の向上を図る。 	<p>4 SCとの効果的な連携を図り、計画的に教育相談会議を実施するなど学校不適応生徒等支援の充実が十分深まった。</p> <p>3 SCとの連携を図り、適宜教育相談会議を実施することで学校不適応生徒等への支援の充実が図れた。</p> <p>2 SCとの連携を図り、教育相談会議を実施することで学校不適応生徒等への支援がある程度できた。</p> <p>1 SCとの連携が不十分で、教育相談会議の回数も少なく学校不適応等生徒への支援に課題が残った。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> SCとの連携の上、情報交換を綿密に行い、教育相談関係者、学年団との協議を行うなど生徒の支援につながった。 学期ごとのFitアンケートを踏まえての教育相談会議を実施する中で、学年や生徒課との連携を深めながら共通の視点に立った支援計画を進めることができた。 教職員研修会をとおし、「通級による指導」についての理解や見識が高まった。 不登校傾向にある生徒はほほいさないが、未然防止や早期対応を図るべく情報交換を深めたい。 		
進路指導	キャリア教育の一層の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演や職場体験学習を通して、職業観や将来のビジョンを育てるとともに自己の適性について理解を深める。 出前授業や大学訪問を積極的に取り入れ、将来自分が学びたいこと、学ばなければならないことを考察する機会とする。 	<p>4 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が80%以上であった。</p> <p>3 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が70%以上であった。</p> <p>2 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が60%以上であった。</p> <p>1 職場体験学習や出前授業等が進路選択に役立っているとの回答が60%未満であった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生へは文理選択を前に講演会を聞き、教務課と合同で説明会を実施した。 2、3年生へ「社会で求められる人材とは」という題で講演会を聞き、将来の進路選択について深く考えさせることができた。 2年生の職場体験先も42から48カ所に増え、きめ細かく対応できた。 8月には1年生全員で山口大学のオープンキャンパスへ参加した。山口大学医学部の出前授業を実施し、検査・看護志望の生徒が参加し進路意識を高めた。 8月には山口大学教育学部の学生を、1月には岡山大学教育学部の卒業生を招き、志望生徒への個別ガイダンスと模擬面接指導を行い推薦入試に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験が2日間だけだと、受け入れ先の説明時間も含まれるので実地の体験時間が少なく、うわべだけの体験で終わってしまっているように感じる。 3校舎合同の発表会でも、水産校舎の生徒に比べ見劣りするもののためかと思う。 長期休業中を含めて、3日～4日が適当のように思う。 早い時期から目標をもつことは大切。自分の将来をイメージする機会をたくさん与えてあげたい。指導も大変でしょうが中味のつまった内容で。 	B
	進学指導体制の連携強化と改善	<ul style="list-style-type: none"> 学年やクラス担任との連携を図りながら、生徒の実態とニーズに応じた進学ガイダンスを提供する。 個々のニーズに適した課外授業や個別指導を教員間で連携をとりながら行い、学習効果の向上を図る。 	<p>4 連携を図ることで生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を大いに充実させることができた。</p> <p>3 連携を図ることで生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等を充実させることができた。</p> <p>2 連携を図ったが、生徒のニーズ等に応じたガイダンスや課外授業等の充実はあまりできなかった。</p> <p>1 連携を図ることができなかった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業前には講師を招き、2、3年生に夏休みを活用した効果的な学習方法についてガイダンスを行い、学年と連携した指導を実施した。入試制度が大きく変わる1学年とは情報を共有し、ポートフォリオへの取り組み方を協議し、英語外部検定についても対策を進めた。 課外は、夏季前期・後期の開講科目の割り振り、開講講座の増設、習熟度別の一部導入で生徒のニーズに可能なかぎり応じた。考査前の土日活用では、開講希望の多い授業の補講を行い学力向上に努めることができた。また、希望者へ東大、九大模試を行い、難関大の個別指導も定期的に行った。 		
事務	学校運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 事務員と教員の連携を強化する。 校舎間の予算管理を円滑に行う。 適切な予算執行により、学校教育目標達成を図る。 	<p>4 3つの具体的方策が十分に達成されている。</p> <p>3 2つの具体的方策が十分に達成されている。</p> <p>2 1つの具体的方策が十分に達成されている。</p> <p>1 どの具体的方策も十分に達成されなかった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、各校舎の予算執行状況を共有することにより、円滑な予算管理を行うことができた。 教員との連携強化することにより、効率的な予算執行ができた。 学校教育目標の達成に向け、引き続き、適切な予算の執行に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔での接遇に心とむことが多かった。 電話の対応や接客は学校の顔になる。 	B
	接遇の向上	<ul style="list-style-type: none"> 来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。 	<p>4 来客等の接遇が大幅に向上した。</p> <p>3 来客等の接遇が向上した。</p> <p>2 来客等の接遇があまり向上しなかった。</p> <p>1 来客等の接遇が全く向上しなかった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 当日の行事や管理職の動静を毎朝のミーティングで徹底することにより、来客対応や電話取次が円滑にできるようになっている。 急な来客に戸惑うことがあったが、接遇方法の再確認をすることにより、対応が向上している。 		

日置校舎				日置校舎			
学校運営等	地域とともにある学校づくりを推進する。	・学校運営協議会をはじめとして関係機関等との協働体制を強化し、学校の課題解決に向けた取組を推進する。	4 課題解決に向けた連携行事等を年間20回以上行った。 3 課題解決に向けた連携行事等を年間15回以上行った。 2 課題解決に向けた連携行事等を年間10回以上行った。 1 課題解決に向けた連携行事等は年間10回以下だった。	3	・本年度も各分野で課題解決に向けた取組を実施し、学校の教育目標を達成できたと思うが、行事については、今後、質を高める方法など在于方について見直しが必要と思われる。	B	・「地域とともにある学校」として一般市民からも期待され、見事にこれに応えている。 ・地域住民との交流や子どもたちにとっての学びの場として、たくさんの提供をしてもらっている。他地域の学校連携も活発にしてほしい。 ・農高祭については、毎年、在り方委員会で検討されているようであるが、更に規模や運営方法について見直しが必要か。
		・家庭や地域に対して、学校の情報を多用に幅広く発信する。	メール配信 HPの更新 新聞掲載 4 毎週 35回以上 20回以上 3 毎週 30回以上 15回以上 2 隔週 25回以上 10回以上 1 隔週 24回以下 9回以下	3	・行事予定やその留意事項については、多少発信が遅くなるがあったが、教員間でしっかりと確認しながらHPに掲載している。特色ある学校行事等については、引き続き報道機関等へ積極的に情報を発信していきたい。		
		・地域の交流、学習の場とした学校開放に努める。	4 年間の学校来場者数が7,000人以上であった。 3 年間の学校来場者数が6,000人以上であった。 2 年間の学校来場者数が5,000人以上であった。 1 年間の学校来場者数が5,000人未満であった。	2	・1年間を通しての学校来場者数は昨年度より少し減っているが、交流活動等の校外学習は活発に行っており、地域連携教育の成果は上がっている。		
学習指導	分かる授業の実践に努め、学力の向上を図る。	・生徒の授業評価を反映した授業改善に取り組む。	授業内容に対する理解度(授業アンケートの項目で、「授業のポイントはよくわかる」)が、 4 3.7ポイント以上 3 3.6ポイント以上 2 3.5ポイント以上 1 3.5ポイント未満	4	・2学期末授業アンケート結果「授業のポイントはよくわかるか」平均 3.7	A	・わかる授業は、生徒の学習意欲や登校したい気持ちにもつながる。先生方には、生徒にわかりやすい授業の工夫をしてもらっている。生徒と先生との関係もとても良い。
		・全校体制での朝学の実施、繰り返し学習に重点を置き、学力の確実な定着を図る。	朝学確認テストで60点(平均点)以上の生徒が、 4 全生徒の8割以上 3 全生徒の7割以上 2 全生徒の6割以上 1 全生徒の6割未満	4	・2学期末朝学確認テストの結果 85.1%		・生徒の授業評価を授業改善にどのように生かしたか、どう課題解決法を考えたか等が評価基準としてあってもよいのではないかと思う。 ・アクティブラーニング等、体験学習の具体的な内容が見える評価が欲しい。
		・体験的な学習、ICTを活用した学習を取り入れ、生徒の活動意欲を高める。	授業アンケートの項目で「先生が準備する教材は解りやすく工夫されている」と、学習状況調査の項目で「解らない点は質問したり調べたりして解決するようにしている」が、 4 アが3.6ポイント以上で、イが3.0ポイント以上であり、作業的な学習活動がある。 3 アが3.6ポイント以上で、イが3.0ポイント未満であり、作業的な学習活動がある。 2 アが3.6ポイント未満で、イが3.0ポイント以上である。 1 アが3.6ポイント未満で、イが3.0ポイント未満である。	4	・2学期末授業アンケートの結果 ア「先生が準備する教材は分かりやすく工夫されている」平均 3.8 イ「解からない点は質問したり調べたりして解決するようにしている」平均 3.0 ・初任者研修等に係る研究授業では、教科内だけではなく、異なる教科間においても研究協議・意見交換をすることで、授業改善に向けての取組を行った。 ・授業に作業的な学習活動を取り入れることで生徒の学習内容の理解を深め、さらに、学習意欲を高めて家庭での調べ学習等につながることを目指していきたい。		
生徒指導	人間関係能力の向上を図る。	・良好な人間関係を構築するための基盤となる基本的生活習慣の確立を図る。	4 基本的生活習慣の確立が十分図られた。 3 基本的生活習慣の確立が図られた。 2 基本的生活習慣の確立がやや図られた。 1 基本的生活習慣の確立が図られなかった。	3	・欠席、遅刻も少なく、毎月行う頭髮・服装指導においても軽微な違反者が数名いる程度で、基本的な生活習慣は確立されつつあるように感じている。基本的な生活習慣は確立されつつあるが、自ら意識して行動できる生徒を増やしていくことが今後の課題と思われる。	A	・他校と比較して、まだあいさつが足りないように感じる。 ・コミュニケーション能力が問われる現代社会において、部活や他校とのつながりがとても大切である。自分を認めてもらえる場がたくさんあることで学習意欲や部活動の活躍にもつながる。
		・3キャンパス制のメリットを生かした体験活動を実践し、3キャンパスの一体感の醸成を図るとともに、他者理解の力を高めていく。	4 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力を高めることができた。 3 3キャンパスの一体感の醸成が図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 2 3キャンパスの一体感の醸成がやや図られ、他者理解の力をやや高めることができた。 1 3キャンパスの一体感の醸成を図ることができず、他者理解の力をやや高めることができなかった。	4	・部活動や野球・ラグビー応援、体験学習、各校舎の文化祭等の様々な活動を通じて、他校舎への理解はより深まってきているように感じる。今後は、3校舎の一体感が必要とされる部活動で、さらに成果を上げることがより一体感を高めることにつながるのと同時に、より他者理解の力が高まるものと考えている。		
		・生徒会を中心とした交流を促進し、協調性やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生徒の感性を磨く時間の設定に努める。	4 生徒の資質向上が十分図られた。 3 生徒の資質向上が図られた。 2 生徒の資質向上がやや図られた。 1 生徒の資質向上が図られなかった。	4	・生徒会を中心とした交流活動は、積極性を増し、校舎間のコミュニケーションを重視する意識が、生徒の間でも高まっているように感じる。本校舎内の活動においても生徒会を中心に生徒間のコミュニケーション能力が高まるとともに、各行事が生徒の成長により成果をもたらしているように感じている。		
保健体育	ヘルスプロモーションの視点に立った健康教育の充実を図る。	・健康診断及び事前事後の保健指導を充実させ、事後措置における受診率の向上を図る。	4 健康に関心を持ち、事後措置における受診率が70%以上であった。 3 健康に関心を持ち事後措置における受診率が60%以上であった。 2 事後措置における受診率が50%以上であった。 1 事後措置における受診率が50%未満であった。	4	全体へ月1回、個人へ各学期末に保健指導を行い、受診率が70.1%であった。長期休業前の個別の保健指導が効果的であった。次年度は、さらに受診率を向上させていきたい。	B	・点検の回数を示すとともに徹底度を評価するとよいのではないかと思う。生徒の美化意識が育つよう指導が図られることも望まれる。
		・学校生活における環境整美及び安全管理に努め、安心安全な学習環境を提供する。	4 学校環境の美化・安全管理が徹底された。 3 学校環境の美化・安全管理が図られた。 2 学校環境の美化・安全管理があまり図られなかった。 1 学校環境の美化・安全管理が図られなかった。	3	・学校施設・設備の点検を行い、危険箇所や修繕を要する箇所を確認した。優先順位の高いものから適宜整備・修繕を行った。次年度も引き続き、安心安全な環境の提供に努めたい。		・健康が一番であると感じさせる指導が必要である。生活のリズムも保護者の理解が必要となる。学校、生徒、家庭が連携し、規則正しい生活習慣を考える場があると良い。
		・規則正しい生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を図る。	4 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が80%以上であった。 3 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が60%以上であった。 2 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%以上であった。 1 適切な睡眠時間の確保と毎日の朝食摂取率が50%未満であった。	3	・朝食摂取率は、「毎日食べる」が77%、「ときどき食べる」が17%、「いつも食べない」が6%であった。また、睡眠時間に関しては、「6~7時間」が38%、「7~8時間」が34%であった。 ・今後は、授業を中心に指導を行い、適切な睡眠時間の確保と朝食摂取率の向上に向けて取り組みたい。		
		・生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施する。	4 生徒情報の集約・共有を図り、効果的な教育相談を実施できた。 3 生徒情報の集約・共有を図り、教育相談を実施できた。 2 教育相談体制が、うまく機能しなかった。 1 教育相談体制が、機能しなかった。	3	・学年ごとに生徒情報交換会を設定し、情報共有が図れるように努力した。また、スクールカウンセラーや関係中学校等の外部機関との連携を試み、教育相談活動の充実に努めた。		

進路指導	系統的・組織的なキャリア教育を推進する。	・3年間を見通した進路指導により、望ましい職業観・勤労観を育てる。	4 LHRの時間においても年間5回以上進路指導を行う。 3 LHRの時間においても年間4回以上進路指導を行う。 2 LHRの時間においても年間3回以上進路指導を行う。 1 LHRの時間においても年間2回以上進路指導を行う。	4	・LHRの時間において5回以上進路指導を行う。今後2月20日に「3年生からのメッセージ」を実施する。	<p>・日置校舎はアットホームな印象である。先生と生徒の関係性も良く、きめ細やかな進路指導がされている。</p> <p>・卒業生を含めた講師による講演会の開催が、生徒にとって魅力的なのではなかろうか。</p>	A
		・インターンシップや進路ガイダンス、学校・企業見学会を通して、自己理解を深め、進路意識の高揚を図る。	4 1・2年次からの進路意識が十分に醸成された。 3 1・2年次からの進路意識が醸成された。 2 1・2年次からの進路意識があまり醸成されなかった。 1 1・2年次からの進路意識が醸成されなかった。	3	・現在まで、進路ガイダンスを2回実施した。学校見学や企業見学等も実施し、進路意識が醸成されたと思われる。		
		・きめ細やかな面談や課外授業、個別指導等を行い、個々のニーズに対応した進路実現を図る。	4 進路決定率が100%達成できた。 3 進路決定率が96%以上達成できた。 2 進路決定率が94%以上達成できた。 1 進路決定率が94%未満であった。	4	・就職希望者、進学希望者全員の進路が決定する。		
農業	地域との連携を強化する。	・学校・地域連携協議会や地元の関係機関との連携を強化する。	4 延べ数で100団体以上の連携と交流を図ることができた。 3 延べ数で80団体以上の連携と交流を図ることができた。 2 延べ数で60団体以上の連携と交流を図ることができた。 1 延べ数で60団体未満としか連携と交流を図ることができなかった。	4	・1月末で、105団体と交流活動を行った。効果的に実施するため、学習活動に関係しない団体との交流活動は制限した。	<p>・地元の関係機関との連携や交流が年々強化されており、とても良い。</p> <p>・直売所は地域の方の集いの場にもなっており、生徒の接客態度も大変良い。</p> <p>・農業技術検定の自己評価は高くないが、この度アグリマイスター顕彰制度で学校表彰を受けるなど、資格取得等の取組について高く評価されてよいと思う。</p>	A
		・6次産業化の基礎を築くために、直売所を活用した教育を展開する。	4 直売所の来客者総数が1,400人以上であった。 3 直売所の来客者総数が1,200人以上であった。 2 直売所の来客者総数が1,000人以上であった。 1 直売所の来客者総数が1,000人未満であった。	4	・年間27回の直売所の運営を行い、延べ1,735人の来客数があった。昨年度と比較すると、来客数は少し減っているが、生徒は6次産業化の様々な取組を行っており、学習の成果は大いに上がっている。		
	農業に関する専門的な知識や技術を幅広く習得させる。	・資格取得を推奨し、学習意欲の向上を図る。	・2学年全員受検の日本農業技術検定3級 4 合格率が70%以上に達した。 3 合格率が50%以上に達した。 2 合格率が30%以上に達した。 1 合格率が30%未満であった。	3	2級の結果…… 3/5 3級の結果…… 23/36 合計の合格率は、63%になった。これは、過去最高の合格率である。		
事務	学校運営の活性化	・事務員と教員の連携を強化する。 ・校舎間の予算管理を円滑に行う。 ・適切な予算執行により、学校教育目標達成を図る。	4 連携を強化し、学校教育目標達成のための予算執行を行うことができた。 3 連携を強化し、事務の見直しを行うことができた。 2 連携は強化したが、学校教育目標の達成には至らなかった。 1 連携の強化が、あまりできなかった。	3	・教員との連携を強化し、学校運営が円滑に進むように、早期に適切な予算執行をすることができた。 ・学校教育目標の達成に向け、引き続き、適切な予算の執行に努める。	<p>・電話の対応も良く、いつも笑顔で受け入れてもらっている。</p> <p>・穏やかな接遇姿勢が感じられる。更なる接遇の向上を図っていたきたい。</p>	B
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。	2	・その日の行事や授業変更等の連絡を密にしてスムーズな取次ぎができるように心掛けたが、お待たせしてしまうこともあり、向上には至らなかった。今後、素早い対応で、相手方に不快感を与えることのないような丁寧な接遇を心掛ける。		

水産校舎						水産校舎	
学校運営等	水産校舎将来ビジョンの検討	・水産校舎課題検討会や広報委員会において、水産教育や水産校舎の中・長期的なビジョンについて検討し、職員会議で検討案の共有を図る。(本年度は特に、3県共同運航、代船建造について検討する。)	職員会議で水産校舎将来ビジョンについて、 4 3回以上、議題に上げた。 3 2回議題に上げた。 2 1回、議題に上げた。 1 全く議題に上げなかった。	4	・次世代創生委員会を開催し、その結果等について職員会議で取り上げ、12月の学校説明会開催につなげた。 ・本年度から本県が「教育部会」を担当しており、今後の3県共同運航・代替船建造等について他県と調整を図りながら検討を進めている。	A	
	地域連携の充実	・地域の企業、団体や学校等と連携した諸活動の目的を明確にする。また、計画的に実施し、生徒の教育活動の質の向上を図る。	年度初めに地域連携の計画を立案し、その取組を 4 90%以上実施した。 3 70%以上実施した。 2 50%以上実施した。 1 50%未満の実施であった。	4	・各部署で計画した地域連携の取組は、一部悪天候により中止となったものもあったが、ほぼ予定通り実施できた。		
総務	円滑な業務遂行	・十分な準備と確認の徹底をする。 ・一人一役全員主役を徹底する。 ・互いに尊重し、助け合う。	4 概ね4週間前に行事等の準備、確認が適切にできた。 3 概ね3週間前に行事等の準備、確認が適切にできた。 2 概ね2週間前に行事等の準備、確認が適切にできた。 1 概ね1週間前に行事等の準備、確認が適切にできた。	3	・総務課員がコミュニケーションを取りながら、協力して行事等の準備、実施が適切にできた。 ・3校舎の校務担当が十分に連携を図りながら、行事やPTA活動等の準備、確認、実施ができた。	B	
教務	基礎学力の向上	・出席率の向上を図るとともに、担任、学年主任、他の分掌や各科と連携を行い、欠点保有者を減少させる。また、定期考査後に欠点2科目以上保有する生徒に対して特別指導を行う。	4 欠点保有者数が昨年度と比較して30%以上減少した。 3 欠点保有者数が昨年度と比較して10%以上減少した。 2 欠点保有者数が昨年度と比較して同程度であった。 1 欠点保有者数が昨年度と比較して増加した。	3	・2学期期末考査の結果で昨年度の19名から本年度は21名に2名増加した。今後も継続して、担任、学年主任、他の分掌や各科と連携して指導を行う必要がある。	B	
	授業規律の確立	・学期毎に全教員、生徒に授業アンケートを実施し、現状を把握し、課題に対応する。また、授業態度の報告を継続し、学年や分掌、各科と連携を行い、迅速に根気強く指導する。	4 授業改善により80%以上の生徒が「わかる」と評価した。 3 授業改善により70%以上の生徒が「わかる」と評価した。 2 授業改善により60%以上の生徒が「わかる」と評価した。 1 授業改善に取り組んだが、十分な成果が得られなかった。	4	・第1回生徒授業アンケートの結果、授業が「わかる」と評価したのは84.4%であった。今後も、授業改善に努めなければならない。		
生徒指導	規範意識の向上	・教員、保護者および生徒間の連携を密し問題行動の未然防止、早期対応に努める。 ・コミュニケーション能力の向上も含め、一人ひとりが主体的に行動できるよう、生徒会を中心に呼びかける。	4 規範意識の向上が十分みられた。 3 規範意識の向上がみられた。 2 規範意識の向上がややみられた。 1 規範意識の向上がみられなかった。	2	・些細なことで指導する場面が増えており、規範意識の向上に向け、より細かな指導が必要である。引き続き教員、保護者と連携した未然防止、早期対応に努めた。	B	
	活気ある生徒会活動	・生徒会行事の立案や地域行事への積極的参加を通じて、活動を広くPRしていけるよう指導助言を行う。	4 活気あるPR活動が10回以上行われた。 3 活気あるPR活動が7回以上行われた。 2 活気あるPR活動が5回以上行われた。 1 活気あるPR活動が3回以下であった。	3	地域行事やボランティアへの参加は昨年同時期に比べ、国際交流会や地区の交流会への参加などの新たな取組も増え、幅広く活動を行っている。		
保健体育	基礎体力の向上	・学校行事や部活動を通して、体育授業との連携を図り、体力の向上に繋げていく事により、体育に興味関心を持たせる。	4 体力向上に80%以上繋ぐことができた。 3 体力向上に70%以上繋ぐことができた。 2 体力向上に60%以上繋ぐことができた。 1 体力向上に60%未満であった。	2	・体育の授業では多くの生徒が運動に興味関心を持ち、積極的に参加し、楽しんでいる。体力の向上は遠泳練習や校内駅伝の練習などで達成できた。	B	
	治療率の向上	・自己の健康に関心を持たせ、治療が完治していない生徒に対し、クラス担任と連携を取り、保護者への連絡を徹底する。	4 治療率を70%以上達成した。 3 治療率を60%以上達成した。 2 治療率を50%以上達成した。 1 治療率が50%未満であった。	3	・日ごろ、部活動や列車の時間の都合で受診が難しいため、夏休みに受診してほしいが、なかなか受診しない。あらかじめ夏休みの予定に入れておくよう指導するなどの対策が必要である。		
進路指導	進路目標の早期設定	・生徒の進路希望情報を教員で共有する。(1学年:1月、2学年:11月、3学年:5月)	4 面談等の実施回数が4回以上であった。 3 面談等の実施回数が3回であった。 2 面談等の実施回数が2回であった。 1 効果的な面談等が実施できなかった。	4	・全校生徒を対象とした複数回の面談を実施することを目標に、進路指導課と学年会が協力しながら進路指導の充実に努めている。	A	
	進路希望の実現	・3年生の就職・進学希望者に対して、十分な情報提供を行い、希望先への内定・進学をめざす。	4 内定率が90%以上であった。 3 内定率が80%以上であった。 2 内定率が70%以上であった。 1 内定率が70%未満であった。	4	・就職内定率90%以上、進学もすべての生徒が希望校に合格することを目標にしている。 ・1、2年生においては、進路意識の向上に向け、面談等を継続する予定である。		

寮務	寮則違反ゼロの実現	・寮則違反ゼロの実現に向け、舎監一丸となって取り組む。	4 寮則違反が前年より75%以上減少した。 3 寮則違反が前年より50%以上減少した。 2 寮則違反が前年とほぼ同じであった。 1 寮則違反が前年より増加した。	2	・舎監全員で集団生活と規範意識の向上に努めたが、寮則違反は昨年度より減少することはなかった。今後も根気強く指導していかなければならない。	・寮則が、入寮時に徹底されていると思うが、機会をとらえては保護者を交えて徹底指導することが必要。舎監の苦勞は十分分かるが、まず教職員全員の問題としてとらえることが肝心。	B
	寮内清潔保持の確立	・日頃の清掃活動を徹底し、学期末には寮生、舎監により大掃除を実施する。	4 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮全体で取り組めた。 3 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に舎監全体で取り組めた。 2 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除に寮務課で取り組めた。 1 日々の掃除の徹底、計画的な大掃除が実施できなかった。	4	・日々の清掃、学期末の大掃除ともに、寮生はもちろんのこと、舎監全体で取り組む事が出来た。来年度も引き続き、寮内美化を継続したい。	・指導は大変でしょうが、イメージにもつながるのでお願いしたい。 ・点呼時間変更を各自申請すれば対応するルール改訂。	
海洋技術	健全な心身の育成	・カッター訓練を通して青海島一周に耐えうる心身を養う。	4 青海島を1周した。 3 青海島の3分の2周ほど漕いだ。 2 青海島の半周ほど漕いだ。 1 青海島の4分の1周しか漕げなかった。	3	・台風24号の影響により、カッター訓練そのものが中止となり、手旗信号訓練を実施した。日頃の訓練により、精神、身体ともに成長できた。来年度も天候の許す限り、青海島一周を目指したい。	・地域のイベントとしても定着がある。今後も引き続き開催してほしい。	B
	目的意識の育成	・各種資格取得や検定合格を目指すことにより、本校で学ぶ目的を確かなものとする。	4 80%以上の者が取得した。 3 60%以上の者が取得した。 2 40%以上の者が取得した。 1 20%以上の者が取得した。	2	・1年生の丙種危険物合格者10名、学科全体の乙種4類合格者0名、乙種3類、乙種2類に1名合格した。全体の合格率43%で昨年度より減少した。再度徹底指導する必要がある。 ・2月に受験予定の海洋技術検定はほぼ全員が合格すると予想している。	・乗船体験など、家庭教育学級でもお願いしたい。	
海洋科学	○産学公連携を通して、地域の活性化や社会へ貢献する取組の実践 ○海洋科学科の維持、発展	・市の主催事業や、地域のイベント小中学校を対象とした講座等に参加実施する。 ・各コースの課題等を拾い上げ、会議や報告会を行い、今後の海洋科学科について検討する。	4 10回参加した。 3 8回参加した。 2 6回参加した。 1 4回参加した。 4 1か月に1回以上会議を行った。 3 2か月に1回会議を行った。 2 1学期につき1回会議を行った。 1 1学期につき1回も会議できなかった。	2 2	・2学期2つの地域イベントが悪天候や審査期間と重なったため参加できなかったが、長門ふるさと祭りには例年通り参加でき、好評であった。来年度も地域のイベントに参加し、水産校舎のPRに努めたい。 ・科学科で話し合う機会を各学期1回ずつしか設けることができなかった。今後、中学生の人数が減る中で科学科の在り方や教育課程等の見直しのため検討する機会を設けなければならない。	・センザキッチン等の連携で、PRにつながるものではないか。もっと市を巻き込んで良いと思う。	B
	専攻科生として知性の育成と専門知識と技術の修得	・将来の船舶職員としての自覚にたつて、模範となる生活習慣の確立と、身だしなみの徹底を図りながら人格の形成を行う。 ・専攻科2年生全員の3級海技士免許の習得を目指す。	4 目標を全員が達成できた。 3 目標を8割の生徒が達成できた。 2 目標を半数以上の生徒が達成できた。 1 目標を殆どの生徒が達成できなかった。 4 全員が資格を取得した。 3 8割の生徒が資格の取得ができた。 2 半数以上の生徒が資格の取得ができた。 1 殆どの生徒が資格取得できなかった。	3 3	・下宿生5名に対して定期的に訪問し、生活状況などのチェック、指導を行った。下宿生・通学生ともに生活習慣が乱れたり、身だしなみが崩れたりすることもなく、社会人への準備が整った。 ・3級海技士の合格者が2名、1級科目合格者が1名と嬉しい結果となった。3月に行われる3級口述試験においても、全員が合格してくれると確信している。	・合格者が増えることはうれしい。指導等でも先生は努力されていると感じます。お疲れさまです。	
1年	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	・欠席・遅刻・早退の多い生徒に対して、担任及び学年・分掌との緊密な連携をとり、迅速な対応をする。	4 事案に対して速やかに対応し、改善された。 3 事案に対して時間はかかったものの対応がなされ改善された。 2 対応が後手に回り、十分ではないが改善の方向に導かれた。 1 改善が全くできなかった。	3	・生徒の情報交換を緊密に行い、指導体制を常に整えた。生活習慣の改善が必要な生徒が多かったが、複数の教員で対応し、早期解決に努めた。	・道具の準備や片付け等のできない幼稚さが気になる場所である。	B
		・好意の持てる挨拶・返事・言葉使いや、頭髪服装の整った礼節ある生徒指導の徹底を図る。	4 全員に徹底された。 3 ほとんどの生徒に徹底できた。 2 半分程度の生徒に徹底できた。 1 ほとんどの生徒が徹底できなかった。	3	・普段から、ほとんどの生徒が明るい挨拶、頭髪服装もきちんとできていた。2年生になっても継続してほしい。		
2年	規律正しい学校生活と進路意識の高揚	・生徒自身に夢と希望を持たせ、個々の目標設定を促していくとともに、生活面の指導を継続的にやっていく。 ・清掃活動の意義と重要性を理解させて、掃除を徹底し、学習環境を整える。	4 生徒たちが自覚と責任のある学校生活をおくれた。また、日々の清掃活動を一生懸命に行った。 3 徐々にであるが生徒たちの自覚と責任ある学校生活が垣間見れた。また、日々の清掃活動を通して学習環境が徐々に綺麗になってきた。 2 生徒たちの自覚と責任ある学校生活はまだまだ不十分であった。また、清掃活動はもう少しの努力が必要である。 1 生徒たちは自覚と責任ある学校生活をおくれなかった。また、清掃活動にもっと意欲的に取り組む必要がある。	2	・2年生と言う中弛みの学年とならないようにと、生徒それぞれが自己実現に向けての日々の努力をたいせつにするように指導をしていきたい。	・後半、授業始め終わりの挨拶については、誠意はなおざりな感がある。(仕方なくやらされているといった感) ・元気が良く、いつも明るいあいさつができるイメージがある。保護者の協力も強化させ、もっと好印象のもてる校舎となしてほしい。	B
3年	社会が求める人材の育成	・コミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着を図り、社会人に必要な心構えを学ばせ、社会で活躍できる人材を育成する。	4 生徒の人材育成のための行事を年間5回以上実施した。 3 生徒の人材育成のための行事を年間3回以上実施した。 2 生徒の人材育成のための行事を年間1回以上実施した。 1 生徒の人材育成のための行事を実施できなかった。	3	・各分掌との連携により人材育成のための行事を4回実施することができた。講演や体験活動、校外で行われたガイダンスへの参加などを通じて、社会人に必要な資質の向上を図った。		
事務	学校運営の活性化	・事務職員と教員の連携を強化する。 ・校舎間の予算管理を円滑に行う。 ・適切な予算執行により、学校教育目標の達成を図る。	4 3つの具体的方策が十分に達成されている。 3 2つの具体的方策が十分に達成されている。 2 1つの具体的方策が十分に達成されている。 1 どの具体的方策も十分に達成されていない。	3	・毎月、各校舎の予算執行状況を共有することにより、円滑な予算管理を行うことができた。教員との連携を強化することにより、効率的な予算執行ができた。 ・学校教育目標の達成に向け引き続き適切な予算執行に努める。	・さわやかな対応ができています。	B
	接遇の向上	・来客に対する接遇の向上(お待たせしない)を図る。	4 来客等の接遇が大幅に向上した。 3 来客等の接遇が向上した。 2 来客等の接遇があまり向上しなかった。 1 来客等の接遇が全く向上しなかった。	3	・当日の行事や管理職の動静を毎朝のミーティングで徹底することにより、来客対応や電話取次が円滑にできるよう資している。 ・急な来客に戸惑うことがあったが、接遇方法を再確認することにより、対応が向上している。	・気持ちの良い電話の対応がされている。	

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

【3校舎共通】

- ・学校運営協議会を計画的に開催した。引き続き、協議会での意見を学校運営に反映しながら、コミュニティ・スクール及び魅力ある学校づくりの取組を推進する。
- ・地域と連携した取組では、3校舎生徒会が「考動力」のスローガンの下、地元女子ラグビーチームとの交流会など、国際理解の取組を進めた。また、長門市向津具マラソンへのボランティア参加等の活動により、連携の質は高まっている。今後とも、地域と連携した活動を利用して教育目標の達成に向けて努力する。
- ・体験乗船や農業体験に加えて、毎学期、3校舎が一体となる学校行事(1学期には野球応援、2学期に合同学習発表会、3学期に合同スポーツ大会)を実施した。次年度も継続することによって学校の一体感の醸成に努める。
- ・学校のホームページにドローンによる空撮の動画を導入するなどの改善を図った。また、生徒、保護者向けメール配信システムを利用しての情報発信の頻度も増やした。今後は、SNSによる情報発信についても検討が必要である。
- ・PTA活動では、各校舎で開催される文化祭、農高祭、すいこう祭などの行事において、校舎を越えた活動に参加していただき、相互理解を深めることができた。今後も継続した取組が大切と考える。
- ・本校ラグビー部が5年ぶりの全国大会出場を果たし、保護者をはじめ、地元やOB・OGからの大津緑洋高校に対する熱い支援をいただいた。今後も家庭や地域への感謝の念をもちながら、学校教育活動のさらなる活性化と充実を図っていく。

【大津校舎】

(学校運営)

- ・学校通信の発行、ホームページの活用、市内以外の中学校訪問など学校からの情報発信を積極的に行い、志願者確保につなげた。今後は中学生にとって、魅力的で興味を引くホームページの改善等も考えていく必要がある。
- ・コミュニティ・スクールとして、地域と連携した取組は充実してきており、本校らしい特色ある教育活動が進められている。高校のコミスクは学校の教育目標を達成するためのものであるため、内容を検討し、より多くの生徒がそれに関われる工夫をしていく必要がある。
- ・国際交流員による講演や女子セブンスの外国人選手との交流、修学旅行でのJICAや大使館訪問の機会を効果的に活用し国際理解教育を推進している。来年度は中馬高校との交流が予定されており、内容を十分に検討し、生徒にとって実り多い国際交流にしていく。

(学習指導)

- ・様々な機会を活用して、三校舎間はもちろん、小中高間でも意欲的に授業研修に取り組んでいる。また、本校舎の特色でもある65分授業を効果的に活用し、各教科が積極的にアクティブラーニングを取り入れ、授業評価アンケートによる生徒の授業に対する満足度も高くなっている。また、生徒たちの朝学・週末課題等に対する取組も概ねよい。

(進路指導)

- ・生徒の発達段階に応じた各種の企画を通して、計画的・継続的に進路指導を進め進路意識の高揚を図っている。また、課外授業、小論文指導、面接指導等にも各教員が熱心に取り組む、生徒の進路実現に向けて支援している。今後の課題としては1、2年次の早い段階での進路指導の充実であり、個々の生徒に早期に目的意識を持たせることで、主体的な学びを推進し、継続させていくための工夫が重要である。

(生徒指導)

- ・ほとんどの生徒は校則を守り、落ち着いた学校生活を送っているが、きまりが守れていない生徒も数人いる。年度の初めにきまりを確認しているが、徹底されていなかったため、定期的な校則の確認が必要である。
- ・自転車の交通マナー・ルールの遵守、校外における携帯電話の使用マナーなど、学校外においても大津緑洋高生としての自覚を持って行動できるよう継続して指導していく必要がある。

(保健指導他)

- ・主体的に健康や体力の増進に努める生徒が増加しているが、検診後の事後措置がまだ徹底できていない。部活動や学習で時間がないという生徒が多く、受診の必要性を感じていない生徒もいる。個別に保健指導を行い受診勧告をするとともに、保健日より委員会活動等を通して受診の必要性をさらに指導し、自己の健康への関心をより高めさせる工夫が必要である。
- ・学校の安心安全の確保及び清潔感保持のため学校環境の点検・整備について継続して取り組んでいく必要がある。
- ・スクールカウンセラーや教育相談関係者、学年団と連携し、秘密厳守の元に情報交換を行いながら生徒の支援につなげている。現在、不登校傾向にある生徒はいないが、引き続き未然防止や早期対応を心掛けていく。また、教職員研修会をとおして、「通級による指導」への理解や見識は高まった。

【日置校舎】

(学校運営・地域連携)

- ・本年度も地域との交流、学習の場とした学校開放に努め、地域連携活動を盛んに行った。来校者は昨年度よりやや少なかったが、校内外での農業学習は充実しており、生徒の自己肯定感の醸成が大いに図られている。地域連携活動の課題としては、教員の多忙化があげられる。

(学習指導)

- ・学習指導においては、「分かる授業」の取組が着実に実践されており、授業評価のポイント数も高い。今後は、授業評価がどのように授業改善に活かされているか検証するとともに、学力の二極化について対策を考えていく必要がある。

(生徒指導・保健体育)

- ・生徒指導においては、全体的に基本的な生活習慣が確立されつつあるが、あいさつの励行を含めて自ら考えて行動できるまでには至っていない。特別活動では、部活動や生徒会を中心とした活動が積極的に行なわれ、三校舎の一体感の醸成が図られた。
- ・保健体育については、健康診断及び事前事後の保健指導の充実により、事後措置における受診率が向上し、健康への意識が高まったと思われる。今後は、この健康意識を持続させるとともに、生徒の校内外の美化意識を育てていく必要がある。

(進路指導)

- ・進路指導では、年間指導計画にしたがってきめ細やかな面談や個別指導を行い、生徒が希望する進路先に早い段階で決定した。進路決定率も100%である。今後も、1、2年次の早い段階での進路意識の醸成に努めていく必要がある。

(農業)

- ・農業においては、2年生全員が日本農業技術検定3級を受験するなど、資格取得やプロジェクト研究活動に熱心に取り組んだ。その結果、アグリマイスター顕彰制度において、学校表彰を受賞した。この取組を継続していきたい。

【水産校舎】

(学校運営・地域連携)

- ・実習船の代替船建造の時期を迎え、3県合同実習の在り方などの検討が開始された。本年度から実習船教育部会の担当となり、今後の水産高校の在り方も含め、議論を進める端緒となる一年となった。
- ・地域や関係機関と連携した活動では、沿岸漁業後継者の育成に向け、県農林水産部・漁協と連携した生徒・保護者を対象に漁業就業支説明会を実施、保護者も含め約20名が参加した。またこれまでも行ってきた、市や漁協と連携したアワビの放流・育成場整備やナルトビエイの駆除活動、地元小学校と連携した食品製造体験授業などに加え、地元漁協女性部と連携した合同実習の実施といった新たな取組も開始し、地域の活性化に貢献するとともに、生徒の学習活動・体験活動の充実を図ることができた。
- ・夏休みのオープンキャンパス、年間2回の中学校訪問に加え、本年度から新たな試みとして、12月に「生徒・保護者向け学校説明会」を開催し、29家族の参加があった。今後も粘り強く生徒確保に向けて取り組んでいく。

(学習指導)

- ・学習面では、授業改善の取組により、アンケートで80%以上の生徒が「わかる」と評価しているが、昨年度に比べると欠点科目保有者が若干増加している。学習状況や出席状況は改善が見られるが、苦手科目の取組状況等に引き続き課題が残った。基礎基本の修得に向け、さらなる授業改善が必要である。
- ・専攻科において、半世紀ぶりに1級海技士筆記試験合格者が出た。2級にも複数合格しており、今後も上級資格へチャレンジする気運の醸成、合格に向けた補習の充実を図る。

(生徒指導)

- ・生活面では、アンケートや相談活動、情報共有の充実等、未然防止の取組を推進しているが、些細なことで指導する場面が増えており、規範意識の向上に向け、よりきめ細かな指導と保護者や関係機関・専門家との緊密な連携が必要である。

(進路指導)

- ・進路指導では、好調な求人状況を背景に、企業とも連携した漁業ガイダンスの実施や、きめ細かな全員面談、事前指導の充実により、2学期中にすべての生徒が進路を決定することができた。学校紹介による就職希望者は全員が内定し、進学希望者も全員の進学先が決定した。専門高校としての特長を生かし、水産関係の進路選択が7割を超えている。

6 次年度への改善策

【3校舎共通】

- ・学校運営協議会での議論を踏まえながら、長門市唯一の公立高校であり、3校舎を有する本校の特長を生かした、「地域とともにある魅力ある学校づくり」を推進する。
- ・開校10周年を控え、大津緑洋高校の『新たな10年』を見据えたビジョン(基本計画)の策定に向けて、課題の抽出と基盤づくりに着手する。
- ・生徒を中心に据え、地域と連携した取組を進める中で、引き続き連携活動の質の向上に努める。
- ・しっかりと情報発信に努め、特に小・中学校の児童生徒、保護者、教員への工夫した情報発信にも努める。
- ・体験乗船や農業体験に加えて、3校舎が一体となる学校行事を継続・充実させ、校舎間連携教育活動及び学校の一体感の醸成に努める。
- ・PTA総会やその他のPTA行事等において、3校舎間の保護者が共通理解・相互理解を深める企画を実施する。

【大津校舎】

- ・コミュニティ・スクールを効果的に活用し、教育の質の向上を図り、教育目標の達成をめざす。具体的には、生徒が地域との交流を通して実践的・専門的な知識に触れる機会を増加させることで、自己の進路選択の一助とし進路実現につなげる。
- ・生徒、保護者、地域に積極的に情報発信するとともに、それを周知することで本校舎の教育活動を理解してもらい志願者確保につなげる。その方策として中学生にとって魅力的なホームページや学校説明会のプレゼンテーションの改善を進める。
- ・国際交流員の積極的な活用や韓国中馬高校との交流内容の充実を図る。また、生徒会を中心としてラグビーワールドカップを活用した国際交流を進め、地域貢献につなげる。
- ・朝学習や週末課題、課外授業等の徹底を図り、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を充実させる。特に、朝学習については、教職員の共通理解を図りながら、効果的な取組となるように工夫する。
- ・教員の授業力を向上させ、65分授業を効果的に活用し、アクティブラーニングによる「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業づくりを実践し、生徒の学習意欲を高め、基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- ・大学の出前講義や大学訪問、インターンシップ等の体験学習を生徒の発達段階に応じて企画し、生徒の主体的な進路意識の高揚を図る。
- ・個々の取組に継続性と関連性を持たせ、生徒が将来の進路を段階的に考えていける体制を構築する。特に保護者会の形態や内容など、1、2年次の進路指導を充実させるための方策を検討する。
- ・生徒は概ね落ち着いているが、一部の生徒には服装の乱れや交通マナー、携帯電話の使用に問題があるため、自己の行動を自ら律する力の育成に取り組み、規範意識の向上を図る。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動、地域と連携したボランティア活動等を活性化することで、生徒の自己有用感を高め、地域の期待に応えるリーダーとしての主体性や自主性を育成する。
- ・生徒が主体的に健康や体力の保持増進に努めていけるように、健康診断後や様々な場面において継続的に指導していく。また、環境整備については、安全面と同時に衛生面からも定期的に点検し、改善が必要な部分は清掃活動や保健委員会の活動として取り組んでいく。
- ・全教職員やスクールカウンセラー、中学校等との連携を進め、個人面談や定期的なアンケートの実施により未然防止や早期対応を心掛け、個々の生徒の課題解決に向けて、きめ細かな支援を実践する。

【日置校舎】

- ・各種部会(学校・地域連携協議会)の活動、学校開放、学校情報の発信を継続して行い、「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・働き方改革に伴い、これまでの地域連携活動について見直しと検証を行い、活動の量よりも質を高める手立てを模索していく。
- ・農業分野に限らずプロジェクト研究活動の充実を図り、地域資源を活用した研究や地域の課題解決に向けた取組を一層推進する。
- ・多くの研究授業等によって教員の授業力の向上を図るとともに、朝学等の充実による生徒の基礎学力の定着を図る。
- ・基本的な生活習慣の確立に向けて生徒一人ひとりを粘り強く指導していくとともに、生徒会活動等の特別活動の充実を図って三校舎の一体感を醸成する。
- ・健康診断の事後措置における受診率を向上させ、更に健康意識を育むとともに、学校の美化等の環境改善に積極的に取り組む。
- ・1年次から進路ガイダンスや企業見学等による進路の情報提供を積極的に行い、早い段階での進路意識の醸成を図る。

【水産校舎】

- ・県内唯一の水産科専門高校として、地域密着の教育活動を展開しながら、本校舎のミッションである「水産のスペシャリストの育成」を推進していく。
- ・全国的な若者の水産離れや少子化への対応が喫緊の課題であり、次世代創生委員会を中心に、全国の水産・海洋系高校と情報連携を深めていく必要がある。
- ・地域連携、地域貢献の活動の充実と働き方改革の両立を図るため、校内フェスタ委員会等により、実施体制や年間計画の見直しと進捗状況の確認等を行っていく。
- ・学習活動では、生徒の基礎学力の向上に向け、全教員が授業改善に努めるとともに、粘り強くきめ細かい指導をしていく。
- ・生徒指導では、引き続き、生徒理解の視点からの相談活動の充実や情報収集・情報共有に努め、問題行動や不登校等の未然防止に向け、組織的に取り組む。
- ・進路指導では、1・2年時からの面談等の充実により、進路意識の醸成・進路希望の早期決定を図る。また、ガイダンスの実施や分掌の連携など組織的な指導体制を充実させ、生徒の進路希望の100%実現をめざす。
- ・保護者や地域、関係機関のアドバイス等を参考にしながら、特長ある教育活動の充実と教職員の資質向上に努めることにより水産校舎の魅力を高め、入学志願者の増加につなげていかなければならない。生徒募集に向けた情報発信等にもさらなる工夫・改善を行っていく。
- ・来年度、「日本海南部地区カッターレース大会(6月)」「日本海南部地区水産教育研究協議会(7月)」「全国水産・海洋系高校生徒研究発表大会(12月)」の引き受けがある。関係諸方面と連携し、各行事の円滑な運営をめざす。